

感染症

感染症にかかり治療後、登園時には感染症の内容に応じて「A 医師の意見書」または「B 保護者記入による登園届」の提出が必要です。

A「医師の意見書」の提出が必要な感染症

※「A 医師の意見書」は医療機関により有料の場合があります。

感染症名	症状	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす
麻疹 〔はしか〕	発熱とともに、咳、くしゃみ、鼻汁、目やに、結膜の充血がある。熱が下がり再び上昇してくると、発しんが出はじめる。頬の内側に白い斑点(コプリック斑)が見られる。	9～14日	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ A型・B型	悪寒、高熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身倦怠感などの全身症状を伴う。咳、のどの痛み、目の充血を伴うこともある。	1～4日	症状が有る時期(発症前24時間から発病3日程度が最も感染力が強い)	症状が始まった翌日から5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過してから
新型コロナウイルス	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常等	1～7日	発症後5日間	発症して後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過してから
風しん	発熱とともに、発しんが出て3～4日で消える。耳・首の後ろのリンパ節が腫れる。	14～21日	発しん出現の前7日から後7日間くらい	発しんが消えてから
水痘 〔水ぼうそう〕	発熱とともに発しんが水泡となり、全身に広がる。頭にも出るのが特徴。	14～21日	発しん出現1～2日前からかさぶたができるまで	すべての発しんがかさぶたになってから
流行性耳下腺炎 〔おたふくかぜ〕	発熱、食欲不振、耳下腺の腫れ、痛みがある。	14～21日	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫れが出現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になってから
結核	咳、痰、発熱が2週間以上続く	1ヶ月以上	喀痰の塗抹検査が陽性の間	医師により感染の恐れがなくなってから
咽頭結膜熱 〔プール熱〕 アデノウイルス性咽頭炎	急に高熱がでる。咽頭炎、目の充血がひどい。	5～7日	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎 〔アデノウイルス8型等〕	涙目、目の充血、目やにが多い(膿のような目やに)	2～14日	発症後2週間	医師により感染の恐れがないと認められてから(結膜炎の症状が消失してから)
百日咳	熱はほとんどなく、夜間に咳をするのが特徴。咳は一回出はじめると連続して出る。10～20回コンコンして、最後にヒューと息を吸う。乳児では無呼吸になることがある。	7～14日	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了してから
腸管出血性大腸菌感染症 〔O157、O26、O111等 ベロトキシン産生大腸菌〕	激しい腹痛、頻回の水様便さらに血便。発熱は軽度	3～8日	便中に菌を排出している間	症状がおさまり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されてから
細菌性胃腸炎 〔サルモネラ・キャンピロバクター・ベロトキシン非産生大腸菌〕	激しい腹痛、頻回の水様便さらに血便。発熱は軽度	細菌により様々	便中に菌を排出している間	症状がないか、下痢などの症状が治まり全身の状態が安定してから
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜の出血が特徴	1～3日	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される間	医師により感染の恐れがないと認められてから
髄膜炎菌性髄膜炎	発熱、頭痛、嘔吐が主症状	主に4日以内		医師により感染の恐れがないと認められてから

B「保護者記入による登園届」が必要な感染症

感染症名	症 状	潜伏期	感染しやすい期間	登園のめやす
溶連菌感染症	発熱、頭痛、咽頭痛があり、その後細かい発しんがでる。莓舌、口角炎がある。発しんのあと、皮膚がむける。	2～5日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後	抗菌薬内服後24～48時間経過していること 治療の継続をしていること
マイコプラズマ肺炎	乾いた咳が徐々に湿った咳になり次第に激しくなる。	14～21日	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	発熱、食欲不振、のどの痛み等の症状で始まり、手のひら、足のうら、口の中、ひざ、ひじ、お尻などに水疱性の発疹が出る。	3～7日	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑 (リンゴ病)	両頬に蝶が羽を広げたような紅斑と熱感がある。上肢・下肢こレース状、網目状の発疹がでることもある。	10～14日	発しん出現前の1週間	全身の状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・腸管アデノウイルス等)	下痢・嘔吐・発熱等を主症状とするが、だるくなるなど全身症状が悪くなりやすい。	原因により様々 1～3日	症状のある間と、症状消失後1週間(量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要)	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急に発熱し、のどが赤く水疱ができる。不機嫌、食欲不振になる。	3～6日	急性期の数日間(便の中に1ヶ月程度ウイルスを排泄しているため注意が必要)	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症 ヒトメタニューモウイルス感染症	発熱、鼻汁、咳、喘鳴(ゼコゼコ)呼吸困難など。	2～8日	呼吸器症状のある間	呼吸器症状がなくなり、全身の状態が良いこと
帯状疱疹	小さい水疱が肋間神経にそった形で片側性に現れ、体の正中を越えない。	不定	水疱を形成している間	すべての発しんがかさぶたになっていること
突発性発しん	突然高熱が2～3日続く。解熱後、細かい発しんが出て、2～3日で消える。	約10日	発熱している間	解熱後1日以上経過し、機嫌が良く全身の状態が良いこと
伝染性膿痂疹 (とびひ)	虫さされ、湿しんなどをかきこわし細菌感染し、周囲の皮膚に広がる。かゆみが強い。	2～10日	水をもった発しんがある間(効果的な治療開始後24時間)	治療を開始後、発しんが乾燥しているか、おおえる程度のものであること
アタマジラミ	多くが無症状であるが、頭をかゆがることがある。	10～14日	発症から数日間	駆除を開始していること
上記以外の感染症				